

内藤家の冊子を作成

亀井の丘夢づくりの会

元明大博物館事務長 伊能さんが執筆

系譜、業績を収録 講演会で配布

延岡市の市民グループ「亀井の丘夢づくりの会」（奥村淳一会長、14人）は、延岡藩内藤家の系譜や業績をまとめた冊子を作成させた。元明治大学博物館事務長で法制史料研究者の伊能秀明さんが執筆。23日の市民向け講演会で配布するほか、関係機関に配ることになっている。

冊子のタイトルは「みどりと歴史の城下町延岡」と内藤家―延岡藩内藤侯の事績・文芸・人づくり―。市の市民まちづくり活動支援事業の支援を受けて千部を作成した。大まかに4項目の構成

①「延岡内藤家の前史」日向北部の藩政―江戸時代の延岡藩政の移り変わり②「延岡内藤家と『内藤六家』の栄枯盛衰」本宗に当たる延岡藩内藤家と分家の五家について③「本宗『内藤家』の歴代藩主」家康の祖父松平清康に仕えた初代義

「城下町延岡と内藤家」 23日、伊能さん講演会

明治大学博物館の元事務長で法制史料研究者の伊能秀明さんの講演会「みどりと歴史の城下町延岡と内藤家」が23日午後2時から、延岡市のカルチャープラザのべおか2階セミナー室である。歴代内藤家当主の事業や功績を解説し、延岡とど



のように関わってきたのかを振り返る。無料。主催は、亀井の丘夢づくりの会（奥村淳一会長）。伊能さんは群馬県生まれ。今年3月末まで明治大学に勤務し、刑事博物館学芸員や事務長、中央図書館事務長、図書館総務事務長、調査役を歴任。

延岡藩主・内藤家に伝来

した藩政史料「内藤家文書」の調査にも深く関わってきた。講演では内藤家初代の義清から始まる歴代藩主の業績を紹介。江戸時代初期に「武功の家」として名を成した内藤家が、武断政治から文治政治へと移り変わる歴史の流れの中で「文人大名」へと変貌していく様子を浮き彫りにする。講演は当日受け付け。誰でも参加できる。